

古代大県郡と知識

2019. 4. 7 柏原市立歴史資料館 安村俊史

はじめに

現在の和歌山県は宝永元年（1704）に付け替えられた川で、それ以前は柏原から北へと流れていました。その和歌山の北東にあたる柏原市北東部は、^{おほがた}大県郡と呼ばれました。この大県郡には、古代に天皇が行幸するような寺院が六つもあったことが『続日本紀』に書かれており、これらの寺院を「河内六寺」と呼んでいます。また、和歌山には「河内大橋」と呼ばれる橋が架かっていたこともわかっています。これらの寺院や河内大橋をつくったのは、仏教を信仰する知識の人々だったのではないかと考えています。大県郡の知識と行基が率いた知識とは関係があったのでしょうか。考えてみたいと思います。

1. 柏原市と行基の伝承

①智識寺

- ・智識寺が行基によって創建されたという人がいるが、そのような記録はない。
 - ・創建は7世紀後半で、行基の活躍年代よりも古い。
- 智識寺という名称から行基との関連を指摘する人がいるだけで行基とは関係ない。

②安福寺（安宿郡）

- ・行基創建と伝えるが、行基建立寺院に見えない。古代の瓦も出土しない。
- 由緒ある寺院とするために、江戸時代ごろに創作か。

※鳥坂寺

- ・道昭に関わるとされる火頭三尊塙仏の出土。
 - ・道昭に関わるとされる山崎廃寺、乙訓寺と同範の軒丸瓦出土。
- 行基の師である道昭との関わりが指摘できる。

2. 河内六寺

①天皇行幸

- ・天平12年（740）、聖武天皇が智識寺に行幸。蘆舎那仏を礼拝し、東大寺大仏造立の契機となる。
- ・天平勝宝元年（749）、孝謙天皇が智識寺行幸。大仏完成間近のお礼参りか。
- ・天平勝宝8歳（756）、孝謙天皇が河内六寺参拝。大仏完成のお礼参り。

②河内六寺と知識

- ・智識寺、山下寺、大里寺、三宅寺、家原寺、鳥坂寺の大県郡六寺。
- ・200～300m間隔で各寺院が建ち並ぶ。
- ・大県郡には可耕地が少なく、有力氏族も少ない。

⇒智識寺だけでなく、ほかの五つの寺も知識によって建立されたのではないか。

- ・六寺から共通した文様の瓦が出土する。
- ・鳥坂寺と道昭との関わり。
- ・鳥坂寺から「志母乃五十戸/飛鳥評 玉作部」と線刻された平瓦。
→安宿郡の玉作部の某から寄進された瓦ではないか。

⇒六寺すべてが知識寺だったのではないか。その中心が智識寺だったのではないか。
だから孝謙天皇が六寺のすべてを参拝したのではないか。

3. 河内大橋と智識

①河内大橋とは

- ・『万葉集』巻第九の1742・1743番に高橋虫麻呂の歌。
- ・題詞「河内の大橋を独り行く娘子を見る歌」。「丹塗り」の「大橋」だった。
- ・高橋虫麻呂は藤原宇合の従者。宇合、神亀3年(726)に知造難波宮事に。
- ・宇合に従って虫麻呂もたびたび平城-難波を往来。

②医王寺旧蔵の『大般若経』

- ・天平勝宝6年(754)の「家原邑知識経」の識語。家原邑=安堂付近。
- ・万福法師(河東の化主)、天平11年(739)から12年(740)の冬に橋を造るも失敗。
- ・花影禅師、天平勝宝6年(754)に橋(=河内大橋)の改修を終える。
- ・「仕奉せる知識」。橋の完成を祈願した写経。

⇒智識による橋の改修。架橋も智識によるのではないか。

橋は彼岸へ渡る橋でもあった。

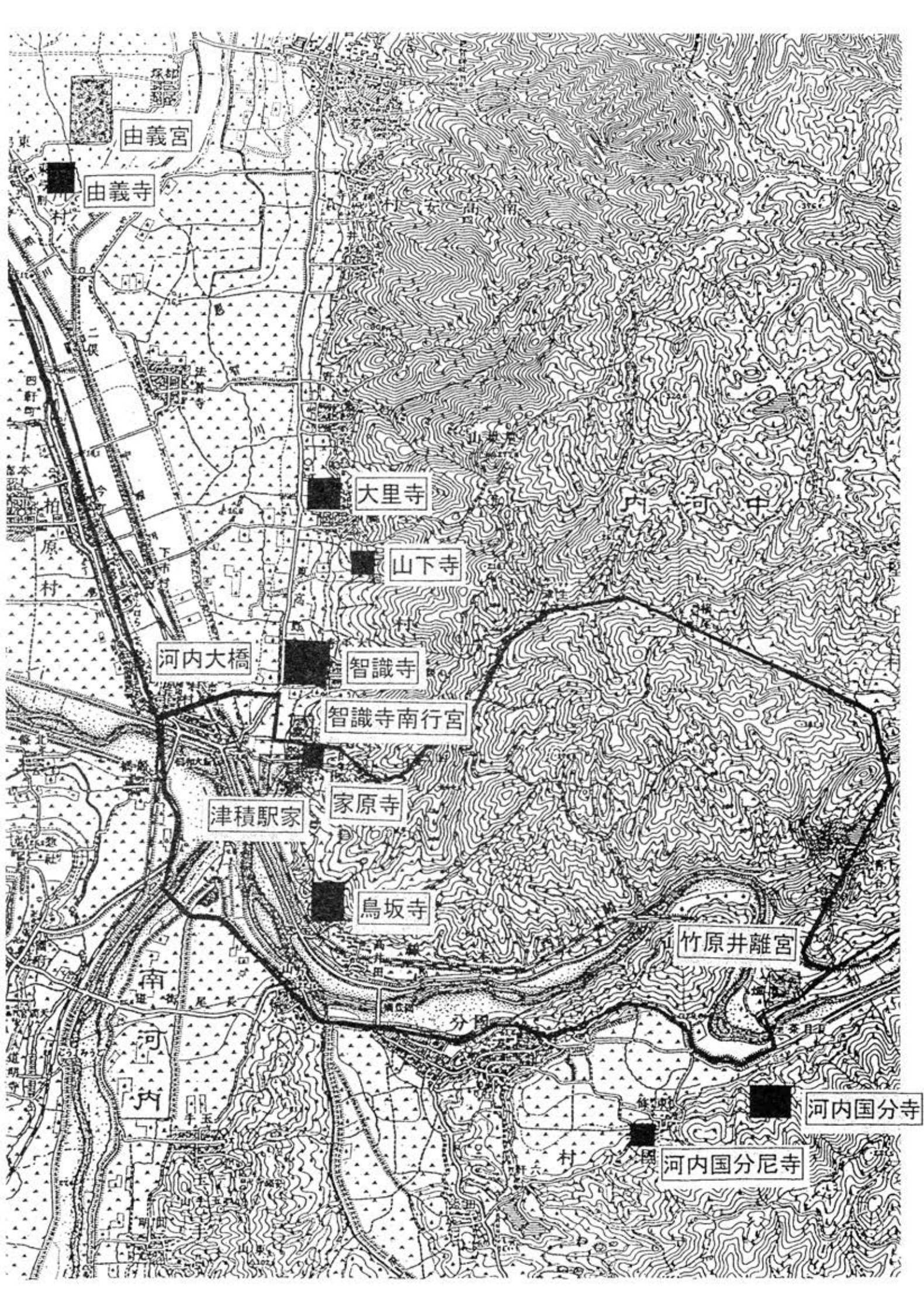
③難波宮造営と河内大橋

- ・天平4年(732)ごろ難波宮ほぼ完成。
- ・大和から河内への龍田道は、山越えのルートに変更。

⇒河内大橋によって、平城から難波まで渡しを利用せずに行幸が可能となる。

まとめ

大県郡だけでなく、中河内から南河内にかけて行基の足跡は見られません。それは、この地域には行基を必要としない知識集団が存在したからでしょう。その知識集団は、渡来系氏族を中心に仏教の教義を深め、仏教の信仰を深めるような知識集団だったと考えられます。智識寺の蘆舎那仏は、聖武天皇を驚かせたことでしょう。そして、聖武天皇が知識の力を理解し、協力を求めるようになる大きな契機となったことでしょう。



由義宮

由義寺

大里寺

山下寺

河内大橋

智識寺

智識寺南行宮

津積駅家

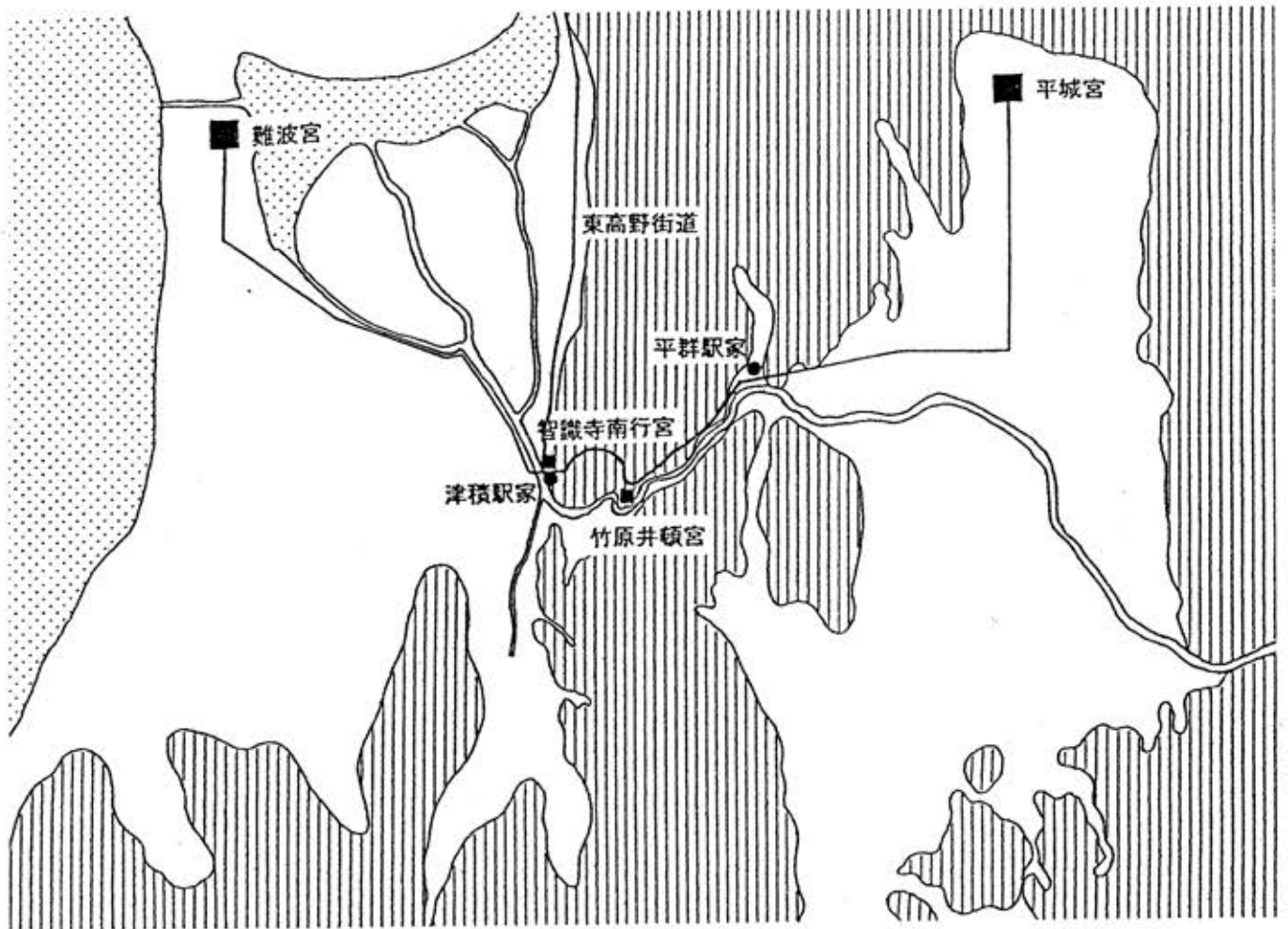
家原寺

鳥坂寺

竹原井離宮

河内国分寺

河内国分尼寺



8世紀の平城から難波への道



河内大橋推定地とその周辺

天平勝宝元年十月

冬十月庚午（九日）〔天皇は〕河内国の智識寺に行幸した。外従五位下の茨田宿禰弓束女の宅を行宮とした。

乙亥（十四日）〔天皇は〕石川（大阪府東南部の南河内地方を南から北に流れる大和川の支流）のほとりに行幸した。志紀・大県・安宿の三郡の人民で百歳以下、小児以上に年齢に応じて真綿を授けた。また三郡の人民が〔出挙で〕負っている正税の本稲と利稲とを免除した。〔河内国の〕自余の諸郡は利稲のみを免除して本稲を収納した。つき従った諸司〔の官人〕には位階に応じて真綿を授けた。

天平勝宝八歳二月

戊申（二十四日）〔天皇は〕難波への行幸におもむき、この日は河内国に至り、知識寺（天平勝宝元年十月九日条参照）の南の行宮に到着した。

己酉（二十五日）天皇は、智識・山下・大里・三宅・家原・鳥坂などの六寺に行幸し、仏像を礼拝した。

庚戌（二十六日）内舍人を六寺（前日条参照）に遣わして、〔各寺の僧侶に〕誦経させた。〔また〕寺の地位に応じて施し物をした。

壬子（二十八日）大雨が降った。

河内国の諸社の祝・禰宜ら百十八人に、地位に応じて正税〔租〕を賜わった。

この日、〔天皇は〕進んで難波宮に至り、東南にある新宮に出御した。

『万葉集』巻第九 一七四二・一七四三

河内の大橋を独り行く娘子を見る歌一首 并せて短歌
しなでる 片足羽川の さ丹塗りの 大橋の上ゆ 紅の 赤裳裾引き
山藍もち 摺れる衣着て ただひとり い渡らす児は 若草の 夫かあ
るらむ 櫃の実の ひとりか寝らむ 問はまくの 欲しき我妹が 家の
知らなく

反歌

大橋の 頭に家あらば ま悲しく ひとり行く児に 宿貸さましを

（原文）

見河内大橋独去娘子歌一首 并短歌

級照 片足羽河之 左丹塗 大橋之上從 紅 赤裳數十引 山藍用 措
衣服而 直独 伊渡為児者 若草乃 夫香有良武 櫃実之 独歎将宿
間卷乃 欲我妹之 家乃不知久

反歌

大橋之 頭尔家有者 心悲久 独去児尔 屋戸借申尾

（現代語訳）

河内の大橋をひとり行くおとめを見て作った歌一首と短歌

（しなでる）片足羽川の 朱塗りの 大橋の上を 紅染めの 赤裳の裾
を引き 山藍で 染めた服を着て ただひとり 渡っているあの児は
（若草の） 夫があるのだろうか（櫃の実の） ひとり寝ているのだから
うか 問い尋ねて みたいあの児の 家も分らないことよ

反歌

大橋の たもとに家があったら 可憐にもひとり行く児に 宿を貸して
やるのに

医王寺旧蔵「大般若経」巻第四百二十一 識語

竊以、昔河東化主、諱万福法師也、行事繁多、但略陳耳。其橋構之匠、啓於曠河、般若之願、發於後身。此始天平十一年、迄來十二年冬、志未究畢、迹僂松嶺、是以改造洪橋、花影禪師、四弘之願、發於寶樹、一乘之行、繼於般若、汎導汎誨、良父良母、干茲吾家原邑男女長幼、幸預其化、心託本主、謹敬加寫大般若經二帙廿卷、繕飭已畢、此第四十三帙并第五十二帙也。仰誓、辱捧一毫之善、咸報四恩之重、伏願、人頼三益之友、家保百年之期、廣者小善餘祐、普及親疎、自他相携、共遊覺橋、奉仕知識伯太造疊賣

天平勝寶六年九月廿九日

(訓読)

竊以るに、昔河東に化主あり、諱を万福法師といふ。行事繁多にして、但だ略陳すらくのみ。其れ橋構の匠は、曠河を啓き、般若の願は、後身に發す。此れ天平十一年に始めて、十二年冬に迄來て、志は究畢せず、迹は松嶺に僂む。

是れを以て洪橋を改造するに、花影禪師、四弘の願を宝橋に發し、一乘の行を般若に繼ぐ。汎く導き汎く誨へ、良に父良に母たり。

茲に吾が家原邑の男女長幼、幸に其の化に預かり、心を本主に託し、謹み敬ひて大般若經二帙廿卷を加へ写し、繕飭已に畢りぬ。此れ第四十三帙并びに第五十二帙なり。

仰ぎ誓はくは、辱くも一毫の善を捧げて、咸四恩の重に報いむことをちかふ。伏して願はくは、人は三益の友を頼り、家は百年の期を保ち、広くは小善の余祐、普ねく親疎に及ぼし、自他相携ひ、共に覺橋に遊ばむことをねがふ。

仕奉せる知識、伯太造疊賣

天平勝寶六年九月廿九日

(現代語訳)

ひそかに考えると、昔、河東の化主と称され、お名前を万福法師と申し上げる方がおられた。法師の業績は多々あるのだが、今はその一端を述べるにとどめる。法師はその造橋の技術を大河において發揮され、衆生を彼岸にわたす願を（今生だけでなく）來世へかけておこされた。これは天平十一年から十二年の冬までのことであり、法師は初志を終えることなく、その足跡を松嶺にとどめられたのである。

そのため広い橋を改修しようとして、花影禪師は四弘の誓願を仏の橋に起こし、（万福法師の始めた）一乘の行を継ごうとした。（これは衆生を）ひろく導き誨すことであり、（衆生にとつて）よき父母のような存在となった。

ここにわれわれ家原村の男女長幼は、幸いにもその教化に預かることができ、心を本主に託し、つつしんでうやまつて大般若經二帙廿卷を加え写し、その装丁が完了した。（分担したのは、大般若經の）第四十三帙と第五十二帙である。

あおいで誓うことには、かたじけなくもごくわずかなこの善行を捧げ、みな四恩の重さに報いようとすることをちかう。そして伏して願うことは、人は交わつて利益となる三種類の友人に恵まれ、家は長い年月にわたつて存続し、広くこの小さな善行がもたらすあまりのさいわいを、親疎の別なくおよぼして、自分も他人もいっしょになって、ともに彼岸のむこうに遊ぶことをねがう。

知識に奉仕した人 伯太造疊賣

天平勝寶六年九月二十九日

、(遠藤慶太「天平勝寶六年家原邑知識經の識語について」より)

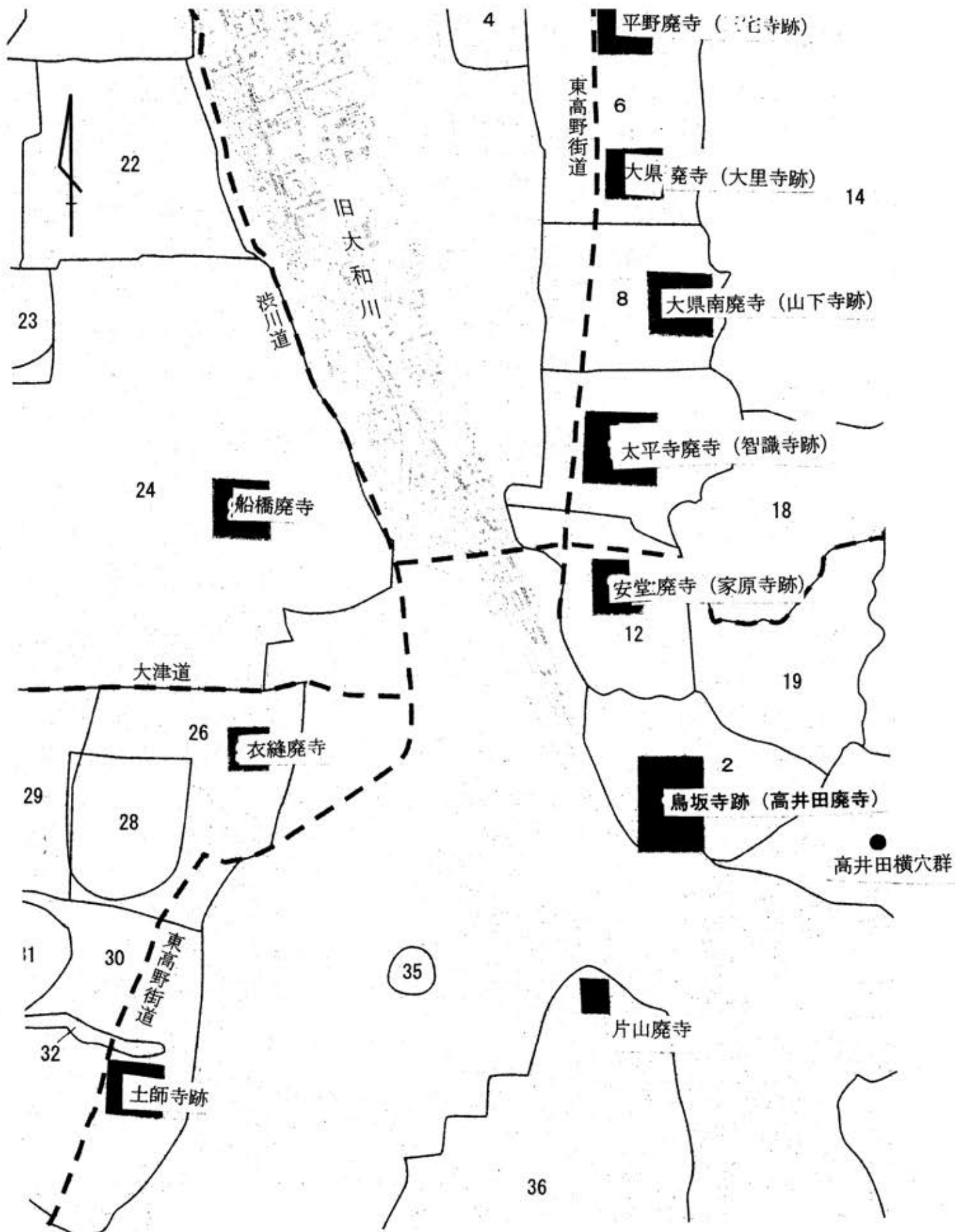
河内六寺を巡る

柏原おいな〜れガイドの会

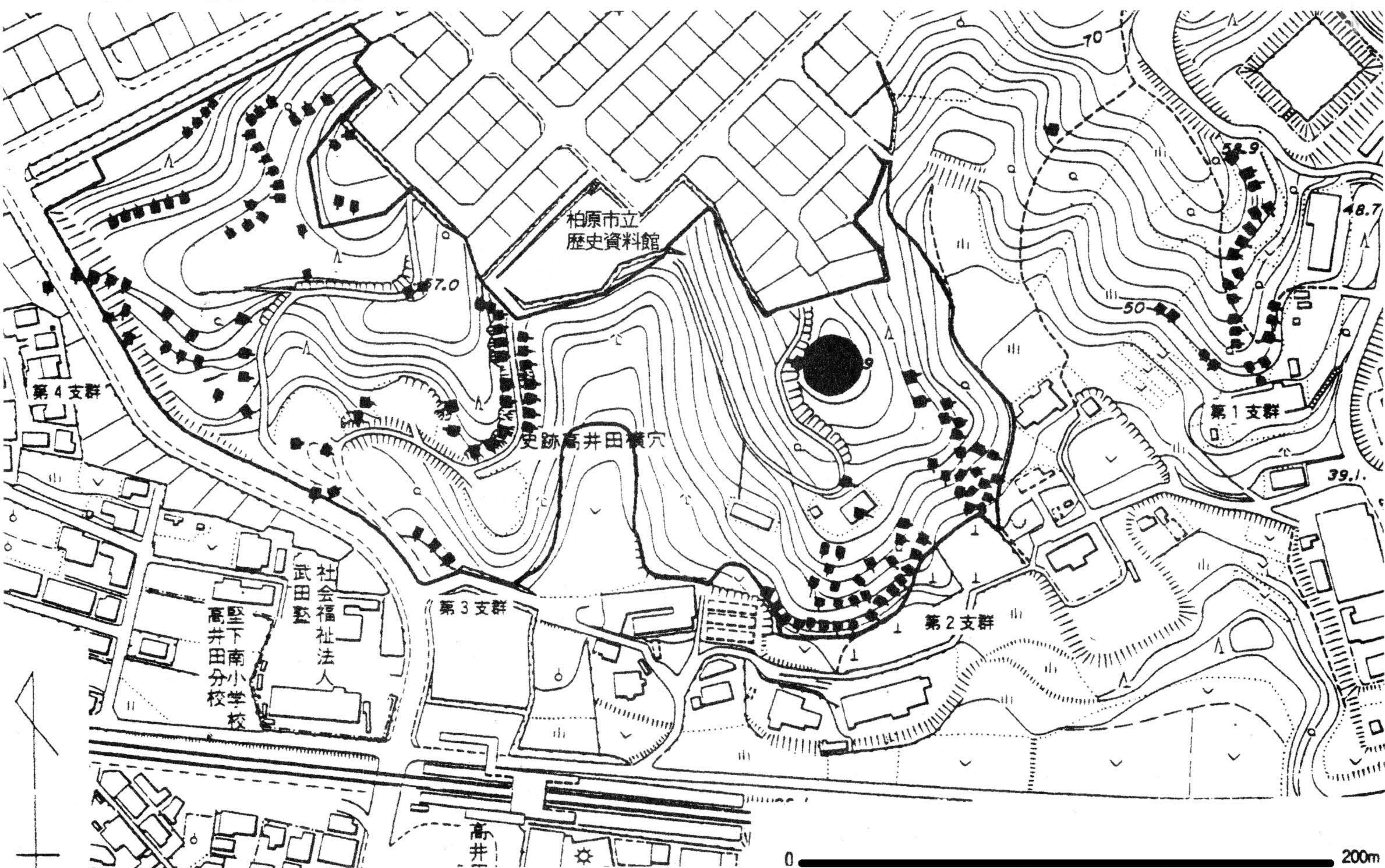
ポイント	説	明
高井田横穴公園	国史跡 200基ほどあると推定されるが、167基の横穴が確認されており27基には線刻壁画が残されている	
高井田山古墳	5世紀後半の円墳(径22m)二つの木棺があった畿内最古級の横穴式石室 火のしが出土しており百済王族の墳墓の可能性が高い古墳です	
柏原市立 歴史資料館	平成4年11月オープン 月曜日休館 無料	
鳥坂寺跡	国史跡 天平勝宝八歳(756)孝謙天皇は平城宮から難波宮へ行幸の途中 柏原で礼佛された河内六寺の一つ	
サンヒル柏原	食堂 二上山・玉手山古墳群・古市古墳群が一望できる	
大和川付替 記念公園	①河内大橋を詠んだ歌(高橋虫麻呂 万葉集) ②大和川付替記念二百五十年記念碑 ③中 甚兵衛の銅像 ④明治十八年の水害碑 ⑤⑥⑦治水功労者の顕彰碑	
大和川分水築留 掛かり世界かんがい施設遺産	2018年8月決定 かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全を資するために、歴史的なかんがい施設を「国際かんがい排水委員会」が認定	
築留二番取水樋	宝永元年(1704)に大和川を付替えたあと、1709年に水利組合を結成して、長瀬川・玉串川の整備と大和川の取水調整などの管理をおこなっている 登録有形文化財 明治二十一年にイギリス積煉瓦造りへ	
河内大橋	万福法師と花影禅師が架けたとされる (株)727敷地内から水辺の祭祀に用いられたと推測される墨書人面土器が見つまっている	
家原寺跡	河内六寺の一つ 正休寺に礎石の一つが残されている 天平十二年(740)の「大般若経奥書」に家原里に住んでいた文史広人・文史玉刀自亮・馬首宅主亮などの知識衆が載っている	

ポイント	説	明
知識寺南行宮跡	付近から調塩の荷札木簡などが出土している	
石神社	延喜式内社 祭神 石姫皇女ほか二柱 神木のクスノキは府天然記念物(高さ 16m以上幹回り 6 m 推定樹齢 800年以上 境内に知識寺東塔の礎石が移設されている	
清浄泉	弘法大師が杖を突いたところ、2尺ほど地下から湧いたと 伝わる井戸	
知識寺跡	河内六寺の一つ 知識衆によって建立された 聖武天皇がここにあった廬舎那仏を見て、東大寺の廬舎那 仏の建立を発願された 観音寺には知識寺什物と伝わる経机がある	
カシモワインファクト [*]	大正時代の堅下ワインの醸造に係わる貯蔵庫は登録有形 文化財	
業平道	東高野街道が出来る前からあった古道で、在原業平が櫛本 (天理市) から高安の娘へ通った道という伝承がある	
山下寺跡	河内六寺の一つ「山下脊川」と墨書された土器が出土して いる	
鐸比古鐸比売神社	延喜式内社 祭神 鐸比古・鐸比売	
大里寺跡	河内六寺の一つ 「大里寺」と墨書された土器が出土して いる 140m四方だったと推定されている	
推定三宅寺跡	河内六寺の一つ 延喜式内社の若倭比古神社付近を推測	
瑠璃光寺	石棺佛があり、そばに延喜式内社の若倭姫神社がある	

※ 行幸では皇族・官人・身回りの世話をする人・護衛など千人ほどが移動する。



高井田横穴古墳群



おすすめ物語りコース



(ご希望のところを、ご相談の上案内しております)

春

龍田古道を歩こう —称徳天皇ものがたり—

コース ▶ 河内堅上駅→竹原井頓宮跡→金山比古神社
→金山比売神社→(横尾を抜けて)家原寺跡→知識寺跡
→推定知識寺南行宮→推定河内大橋→安堂駅



夏

玉手山古墳群から古市古墳群へ —後藤又兵衛生存説—

コース ▶ 河内国分駅→大坂夏の陣古戦場碑→玉手山3号墳
→古市古墳群遠望→安福寺→前期古墳の石棺(国重文)→伯太比古神社
→道明寺天満宮→仲姫命陵古墳→允恭天皇陵古墳→土師ノ里駅



秋

大和川記念公園から古民家・壺井寺 —大和川ものがたり—

コース ▶ リビエールホール→大和川記念碑
→大和川分水築留掛かり世界かんがい施設遺産
→瀬川家→三田家(重文)→寺田家(登録文化財)
→本郷遺跡→壺井寺→堅下駅



冬

水仙峡から河内六寺 —業平ものがたり—

コース ▶ 堅下駅→鐸比古神社→水仙峡→業平道
→大里寺跡→山下寺跡→知識寺跡→安堂駅



柏原おいな〜れガイドの会案内図

